

施工期間2日、住みながら屋外から耐震リフォーム  
フレームプラス フレームプラス ジーツー  
**耐震補強フレーム「FRAME+ G2」3月発売**  
業界初！窓を活かした「コンクリート工事不要のアルミ四方枠」構造

YKK AP株式会社（本社：東京都千代田区、社長：堀 秀充）は、木造戸建住宅1階の窓の外側に取付け、窓を活かしながら住まいの耐震性能を向上できる耐震補強フレーム「FRAME+」（以下、「フレームプラス」）のバリエーション追加として、耐震補強フレーム「FRAME+ G2」（以下、「フレームプラス G2」）を2017年3月に全国発売します。

これまで、木造戸建住宅の耐震性能を向上するリフォームでは、床・壁・天井をはがして構造躯体を補強したり、耐震強度上の弱点となる窓を減らして耐震壁にするなど、大がかりで生活に負担のかかる工事が主流でした。2014年10月発売の「フレームプラス」は、“工事で室内に入って欲しくない”という生活者の要望に応える、屋外側の工事が主体の耐震補強フレームです。また、窓をなくさず通風・採光・眺望などの機能はそのままに住まいの耐震性能を向上し、地震から家族を守ります。

新商品「フレームプラス G2」は、「フレームプラス」の基本コンセプトをそのままに、工法の簡略化を図ることで、生活者の負担を更に軽減します。窓のまわりを囲う「コンクリート工事不要のアルミ四方枠耐震フレーム」を業界で初めて採用（特許申請中）して施工を簡略化したことで、施工期間の大幅な短縮（2～3週間 → 2日）と工事費用（材料費+施工費）の約3割削減を実現します。

2016年4月に発生した熊本地震では、比較的築年数の浅い木造戸建住宅も被害を受けたことから、新耐震基準（1981年6月1日以降の建築確認）の建物であっても耐震性能を高める必要性が高まっています。「フレームプラス G2」は、国が進める建物の耐震化の動きに対し、適切な耐震リフォームが可能ですので、安全・安心で快適な住まいづくりに貢献します。

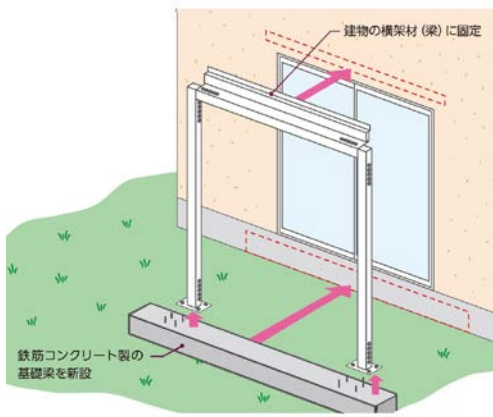
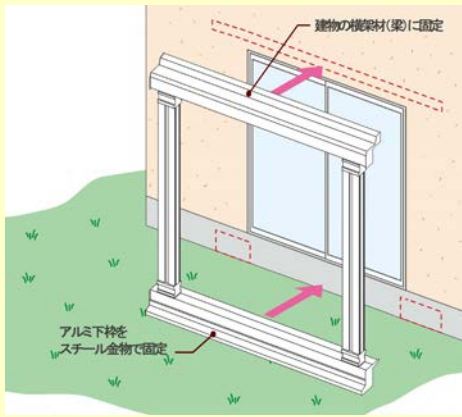
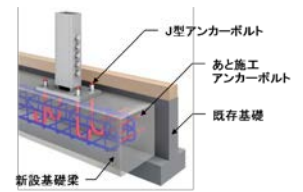



「フレームプラス G2」単体



「フレームプラス G2」と窓（シェード付）の施工イメージ

【「フレームプラス」と「フレームプラス G2」の比較】

商品名	FRAME+	FRAME+ G2 <span style="color:red; font-weight:bold;">NEW</span>
対象建物	木造在来軸組住宅 (窯業系サイディング、モルタル外壁)	木造在来軸組住宅 (窯業系サイディング、モルタル外壁)
施工方法		
構造	アルミ三方枠+新設基礎	アルミ四方枠
基礎部	既存基礎に対して 新設基礎(鉄筋コンクリート造)を打設 <湿式> 	既存基礎に対して アルミ下枠をスチール金物で固定 <乾式> 
工事期間	2~3週間 (コンクリート養生期間含む)	2日間

【「フレームプラス G2」参考情報】

- 発売日：2017年3月予定
- 参考価格(製品代)：未定  
 ※施主が実質的に負担する費用(「フレームプラス G2」製品代と施工費の合計)は、1箇所(フレームサイズ幅1,820mm×高さ3,000mm)あたり100万円程度(消費税別)を想定しています。但し、建物の状況により、異なる場合があります。実際の費用は、各販売店により決定されます。
- 売上目標金額：耐震フレームシリーズ全体で2020年度に10億円
- その他
  - ・京都大学(生存圏研究所 五十田 博教授)との共同研究の成果です。
  - ・木造在来軸組構法3階建までの1階部分に取り付け可能です。
  - ・製品色(アルミ製の梁・柱)は、5色(ブラウン、カムブラック、プラチナステン、ピュアシルバー、木目)です。
  - ・日本建築防災協会の技術評価は、2017年に取得手続きを実施する予定で、助成金の対象になるのはその評価を取得して以降となります。

＜お客様からのお問い合わせ先＞

YKK AP株式会社 「耐震商品」お問合せ窓口  
TEL：0120-4134-30